

研修会

春！日本のサクラを楽しもう

～ここまで解き明かされた日本のサクラの秘密～

龍門 海行（柏市）

日時：2013年4月19日（金）10時～15時 天気：曇り

場所：（独立行政法人）森林総合研究所多摩森林科学園

講師：多摩森林科学園 勝木研究員

参加者：指導員29名、会員外1名 担当指導員：佐野 由輝、盛一 昭代

今年の東京の桜（靖国神社のソメイヨシノ）開花宣言は、3月16日午前との報道があり気象庁が現在の観測方法を始めた1953年以降で、2002年と並んで過去最速との事。本来なら研修会当日は丁度いろいろな種類のサクラが見られる時期であったが、地球温暖化のためか、例年と違い五弁のサクラは殆ど散り、多弁桜も種類により多少散ったり満開或いはこれからのもあった。その中でJR高尾駅より科学園入口至る街路樹の八重桜（カンザン）が、見事な花を咲かせているのが印象に残った。



勝木研究員からの説明をうける

園内での午前中は参加者が案内パンフを手にサクラ等を見て回りながらフリーで散策をし、午後より講師による園内解説案内をしていただいた。

最初に、NHK大河ドラマ「八重の桜」主演の綾瀬はるかさんが名付け親となった新しい八重桜「はるか」の原木前で解説を受けた。次に現在の科学園の前身は帝室森林（御用林）の一部であり宮内庁管理であったとの事。

このサクラ保存林（現在総数約1300本）は1966年度に設置され、桜の保存は接木や挿し木といった方法で行われ、接木で増殖したサクラを後世まで伝える事である、との説明あり。なお、接木の台木にはオオシマザクラ（マザクラ）を使うとの事。また、保存林には全国から集められた名木や栽培品種など様々なサクラが保存されており、その中でももっとも重要なグループが安行（現在の川口市）から導入された栽培品種との事。なおかつ、学術的にも貴重であった荒川堤のサクラのコレクションが安行で栽培されており、



新品種：ハルカ

この荒川堤に由来するサクラを保存林で保存しているとの事。

約90分の案内途中各所での科学園関連の解説を受け、サクラの特長や見方などのポイントのお話をして頂き解散となった。以前個人的に訪れた科学園では自由に回りサクラ等を愛でただけであったが、今回はサクラ保存林の歴史やサクラに関する事等を研究員の説明を受け、非常に有意義な研修会でした。